

世界的評価が高まるポルトガルの鬼才ペドロ・コスタ監督。 詩情あふれる映像美、その軌跡を探求する特別プログラム。

山形国際ドキュメンタリー映画祭(以下YIDFF)2001にて最優秀賞を受賞した『ヴァンダの部屋』はストイックかつ過酷な映像美によって観る者に圧倒的な衝撃を与え、ペドロ・コスタ監督の世界的な評価を不動のものとした。それからおよそ10年の歳月が流れた今も、彼は未だ誰も見た事が無い映画の地平を求め、走り続けている。本企画はYIDFF 2007で日本初公開となった『コロッサル・ユース』、そして最新作『何も変えてはならない』へと続く変遷を追い、ストロープ=ユイレをキーワードとして真摯かつ誠実な映画作りのスタイルを探求するという試みである。参考上映としてストロープ=ユイレの名作『アンナ・マグダレーナ・バッハの日記』も上映。映画に服従させられる至福の瞬間がここにある！

上映作品



アンナ・マグダレーナ・バッハの日記

1967年/35ミリ/モノクロ/94分
監督・脚本・編集：ジャン＝マリー・ストロープ/ダニエル・ユイレ
出演：グスタフ・レオンハルト/クリスティアーネ・ラング/ニコラウス・アーノクワール

バッハの二番目の妻、アンナ・マグダレーナ・バッハが綴るヨハン・セバスティアン・バッハの生涯。20曲以上のバッハ音楽が虚飾を排した崇高な演奏シーンによって全編に渡って流れ続ける。そのシーンは全て古楽器による同時録音。またバッハ役にチェンバロの神話的巨匠グスタフ・レオンハルト、アンナにドイツのソプラノ歌手クリスティアーネ・ラングを配して、ヨーロッパ古楽器の専門家たちを総結集した最高の陣容で臨んでいる。



映画作家ストロープ=ユイレ/ あなたの微笑みはどこに隠れたの？

2001年/35ミリ/カラー/104分
監督・撮影：ペドロ・コスタ 出演：ジャン＝マリー・ストロープ/ダニエル・ユイレ

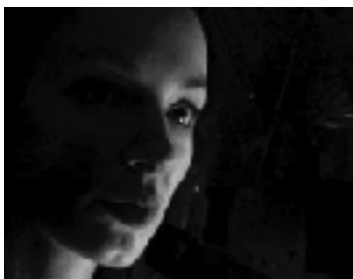
二人で一人の映画作家ストロープ=ユイレ。いまや伝説的とも言えるほどの映画作りへのストイックな姿勢を、ペドロ・コスタが真摯に見つめる。1999年にル・フレノワ国立現代芸術スタジオで行われた『シチリア！』編集作業を記録した本作は、夫婦でもある二人の映画愛に満ちた創作過程を映し取るだけでなく、一本の映画が生まれる一瞬一瞬を二人の感情の交錯を通して描き出す。光と影が織りなす誠実なまなざしは、美しく観るものを圧倒する。



コロッサル・ユース

2006年/35ミリ/カラー/155分
監督・撮影：ペドロ・コスタ
出演：ヴェントゥーラ/ヴァンダ・ドゥアルテ/ベアトリス・ドゥアルテ/イザベル・カルドー

リスボン郊外のスラム街フォンタイニャス地区を舞台に、移民労働者ヴェントゥーラの魂の彷徨が描かれる。荒廃した貧民窟と新しい集合住宅を歩き来つつ、自らが「子どもたち」と信じる人々を訪ね歩きながら自分の居場所を見出そうとする。その聖なる歩みは美しく哀しい。YIDFF2007で日本初公開となった本作が再び山形に上陸。ドキュメンタリーとフィクションの枠を超え、人間についての、土地についての壮大な叙事詩を綴るペドロ・コスタ監督の渾身の一作。



何も変えてはならない

2009年/35ミリ/モノクロ/103分
監督・撮影：ペドロ・コスタ 出演：ジャンヌ・バリバル/ロドルフ・ビュルジュ/エルヴェ・ルース/アルノー・ディテリア/ジョエル・テュー

若手から巨匠まで現代フランスにおける映画作家たちのミュージズとして知られるフランス女優ジャンヌ・バリバル。歌手としても知られる彼女の音楽活動の軌跡をペドロ・コスタ監督が独自の視点で描き出す。ひとりの女優の持つ様々な表情を、モノクロの美しくも力強い映像で見事に捉え、囁くような歌声とその魅力を繊細に紡ぎ出す。友情と敬愛をもってポルトガルの俊英が描く、密やかな愛の唄。これまでにない至高の音楽ドキュメンタリーの誕生である。

ペドロ・コスタ Pedro Costa

1959年ポルトガル生まれ。リスボン大学で歴史と文学を専攻後、国立映画学校に学び、アントニオ・レイスに師事。1987年に短編『ジュリアへの手紙』を監督。1989年長編劇映画第1作『血』を発表後『溶岩の家』(1994)、『骨』(1997)でポルトガルを代表する監督の一人として世界的に注目される。その後制作スタイルを一新して挑んだ『ヴァンダの部屋』(2000)は、YIDFF 2001にて最優秀賞を受賞、ロカルノ国際映画祭を初めとする各国の国際映画祭で多くの受賞を果たした。『映画作家ストロープ=ユイレ/あなたの微笑みはどこに隠れたの？』(2001)発表後、『コロッサル・ユース』(2006)では、リスボンのスラム街フォンタイニャス地区で三たびの撮影に臨み、カンヌ国際映画祭ほか、世界各地の映画祭で高い評価を受けた。YIDFF 2007には審査員として参加している。最新作はフランス人女優ジャンヌ・バリバルの音楽活動を記録した『何も変えてはならない』(2009)。2010年7月より日本での公開が始まり、いよいよ山形公開となる。

会場 山形ドキュメンタリー
フィルムライブラリー

[山形ビッグウイング3F]
山形市平久保100
TEL 023-635-3015
山形駅から「県立中央病院」行バスで20分
無料駐車場有

会場 フォーラム山形

山形市香澄町2丁目8-1
TEL 023-632-3220
山形駅から徒歩7分
フォーラム駐車場 4時間無料

上映スケジュール

10月30日 [土]

『アンナ・マグダレーナ・バッハの日記』 10:00/14:10/18:20

『映画作家ストロープ=ユイレ/
あなたの微笑みはどこに隠れたの？』 12:00/16:10/20:30

11月6日 [土]

『コロッサル・ユース』 10:00/13:00/16:00/19:00

11月10日 [水] ~11月12日 [金]

『何も変えてはならない』 ※上映時間はお問い合わせください。

入場料金

1作品につき
■ 前売 1,000円
■ 当日 1,200円

※山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー上映の3作品については高校生以下無料です。『何も変えてはならない』は高校生以下、フォーラム山形の劇場料金に準じます。ご了承ください。

■ チケット取扱：山形プレイガイド/十字屋山形店/八文字屋プール/宮脇書店az七日町店/山形国際ドキュメンタリー映画祭/フォーラム山形

■ お問い合わせ：山形国際ドキュメンタリー映画祭 TEL 023-666-4480 E-mail info@yidff.jp